

令和7年5月11日（日）《午前》

第13期Bコース研修生 「リーダーシップ⑥」

この夏にアメリカ・カナダへ留学する第13期Bコース研修生75名を対象に、5月11日（日）午前、リーダーシップ研修が開催されました。ロールモデルとの出会いや様々なワークショップを通じた対話や協議など、体験的な内容を多く取り入れた研修を通して、リーダーシップとは何かを体感的に理解し、次世代リーダーとしてふさわしい資質を身に付けるもので、今回が6回目（最終回）となります。

当日は、研修生代表のあいさつでスタートした後、この日のために集まってくれた外国からの留学生12名と対面しました。その後、研修生6名と留学生1名で1チームを作り、12の班に分かれ、パキスタン、ベトナム、アフガニスタン、タンザニア、ザンビア、ケニア、ウクライナなどの国々から来た国費留学生の皆さんとそれぞれ自己紹介をしながら交流を図りました。そして、早速、今日のプログラムに入りました。

今日取り組むプログラムは、まずは留学生から自分の人生のストーリーを聞き、また留学生が興味・関心のある地球的・社会的規模の課題を聞いて、留学生から見た世界に触れます。そして、「より良い未来を創るための私たちのアクション」というテーマで、特に解決したい課題は何か、その課題を乗り越えるために自分たちはどんなアクションをすれば良いのか、更にその課題を乗り越えた世界はどんな世界になるのか、を対話の中から探っていきます。そしてお互いそれらを発表し、知見を深めていきます。



最後に研修生代表のあいさつで終わりましたが、もちろん、使用言語はすべて英語です。研修生はこれまで多くの英語の研修で、英語力を高めてきました。研修の初期、自信なさそうに小さい声で英語を話していた多くの研修生が、今回は、流ちょうで正しい発音の英語を使い、自ら積極的に話し合う姿を見て、研修の成果が表れていることを感じました。

留学先への出発まで、もうカウントダウンが始まります。上達した英語力を駆使して、留学先で多くのすてきな交流ができることを期待しています。

令和7年5月11日（日）《午後》

第13期Bコース研修生 「ゼミナール④」

ゼミナール研究は、留学に出発するまでに、国内で調査・研究を開始し、留学先での調査・研究の方向性を示したアウトラインを作成します。今回、4回目となるゼミナール研究は、留学前最後の回になり、アウトライン発表会として、7会場に分かれて各自が作成したアウトラインを発表して協議を行いました。研修生は、本日の発表会を受けて、留学先で研究報告書を完成させることになります。

発表会で研修生は、研究テーマの設定理由、これまでに実施した調査の概要、調査から分かったこと、今後の留学先での研究内容、課題解決の方向性などについて発表しました。発表後の協議の質疑応答では、同期の研修生だけではなく、会場によっては修了生から発表者に対して講評がありました。発表後、研修生は各自気付いた点などをアドバイスシートに記入し、発表者に手渡しました。受け取った研修生は、アドバイスシートのコメントを参考に、今まで気付かなかった多様な視点から自分の研究内容について考えを深めていきました。



研究のテーマは、「社会貢献の精神をいかに育むか」、「日本とアメリカの相対的貧困」、「これからの世界における精神疾病予防の在り方について」、「移民政策による経済的影響」、「食品ロスを減らそう」、「将来の世界の教育の在り方について」等、多岐にわたり、どの会場も熱心に発表や質問をしていました。

なお、今回のゼミナール研究のアウトライン発表会には、東京教師養成塾の塾生の参観もあり、塾生のみならずにとっても充実した機会になりました。